

言語行動を説明する言語表現と丁寧さ

杉戸 清樹

1. 対象とする言語表現類型

標題に言う「言語行動を説明する言語表現」とは、そのつどの言語行動場面において話し手（書き手）自身がこれからどんな種類の言語行動をしようとしているか（あるいは、いまどんな種類の言語行動をしたか）を、具体的な言語表現の形をもって明示的に言ったり書いたりした、その言語表現をいう。たとえば、次の例のうち下線を施したそれぞれの部分のような言語表現類型である。

「チョットお願いします、ソコノ窓アケテクダサイマセンカ。」

「スミマセン、オ尋ねしますガ、新宿行キノバスハ何番乗り場デショウカ？」

「ゴ結婚マコトニオメデトウゴザイマス。謹んでお祝いノ言葉ヲ申上ゲマス。」

「以下ニ、イクツカ実例ヲ列挙シテオクコトスル。①・・・ ②・・・。」

「ご案内 3階ノ講演会会場ヘハ、コノサキノ階段ガゴ便利デス。」[揭示]

「平成5年度事業計画書ノ提出ニツイテ（依頼）」[公文書の標題]

これらの例で下線の部分は、それに後続（先行）する部分の言語表現によって実現する言語行動がどんな種類のものであるかを、すなわち挙げた順に言えば、依頼、質問、祝賀、挙例、案内、依頼という種類の言語行動であることを、明示的に説明した言語表現であると言える。当の言語行動に説明的に言及し、それ自体が具体的な言語表現形式を備えた言語行動であるから、メタ言語行動とよぶべき言語行動類型に属するものである。

2. 問題の所在

この種の言語表現について、筆者は言語行動研究の立場からこれまでにいくつかの検討を加えてきている。杉戸1983、杉戸1985、杉戸1989、杉戸・塚田1991、杉戸・塚田1993などの拙論がこれだが、この一連の考察において焦点の一つとしているのは、問題の言語表現のもつ表現機能である。たとえば杉戸1989では、この表現機能を次の3種類の観点で記述することを提案した。

- ①その言語行動によって表現される内容（話題や素材、あるいは叙述や判断の内容）のわかりやすさやそれを表現・伝達する言語行動の過程のわかりやすさという意味での「わかりやすさ（明晰性）」にまつわる機能

②その言語行動に関与する人的要素（言語行動主体、相手、登場人物、わきの聴衆など）や場面的な要素に対する、言語行動主体（話し手・書き手）の待遇表現的な配慮としての「丁寧さやあらたまり」にまつわる機能

③言語行動にまつわる、上記の2種類以外のさまざまな言語行動規範（言語習慣・タブー・文書規範・文章作法・言語生活マナーなど）にまつわる機能

これらのうち、小論では②丁寧さ・あらたまりの観点をめぐって、具体的な言語調査資料を対象として検討する。

この丁寧さ・あらたまりという観点については、これまでに次のような考察・議論をした。（なお、小論では直接の対象としない①わかりやすさや明晰性の観点については、学術分野の専門的文章というジャンルでの実態を記述した杉戸・塚田1991がある。）

- (1) 言語行動の種類を説明するメタ言語表現を含めて、具体的な言語場面における言語行動のさまざまな構成要素（人的要素、場面的要素、言語的要素、心理的要素など）への行動主体の対人的な配慮のありかたを明示する一群のメタ言語表現類型が日常的に行われる。この種の言語表現を検討することによって、われわれが狭義の言語形式のみならず言語行動の諸側面にわたる広範な事象に待遇表現意識（丁寧さやあらたまりの気持ち）を託していることが知られる（杉戸1983）。
- (2) 公用文という言語作品ジャンルには、言語行動の種類を説明するメタ言語表現がきわめて優勢に（公文書の世界の規範を前提として定型的に）出現する。また、地方自治体職員という公文書の当事者たちは、この言語表現がそれを含む言語表現全体の丁寧さやあらたまり性をもたらしものであるという意識をはっきりと持っている（杉戸1985）。
- (3) 自治体の関与する公的な儀式などの場面でのあいさつ（スピーチ）という言語行動ジャンルにも、言語行動の種類を説明するメタ言語表現は優勢に出現する。共起する他の言語事象との関連から、このメタ言語表現はあいさつ行動そのもののあらたまり性を支える言語的な手段となっていると解釈される（杉戸・塚田1993）。

詳しい内容はそれぞれの拙論にゆだねるが、これらの議論で示しえたのは、問題の言語表現が丁寧さ・あらたまりという対人的な意味、換言すれば人や場面への配慮を土台にした待遇表現としての意味を、どのような仕組みで実現しているか把握できるのか（杉戸1983、杉戸・塚田1993など）、また問題の言語表現の発揮しうる丁寧さ・

あらたまりを言語主体はどのように意識しているのか（杉戸1985）という範囲にとどまっている。いわば問題の言語表現と丁寧さとの関係の輪郭・枠組みと、これについての言語意識だけを扱ったにすぎず、この関係そのものを直接に考察するには至っていない。小論はこの点を、ある限られた言語調査資料の範囲で、考えようとする。

3. 考察対象とする言語資料と考察の手順

ここで扱う資料は、国立国語研究所が愛知県岡崎市で行った敬語と敬語意識に関する社会言語学的な臨地調査で得られたものである。岡崎調査は、1953年度と1972年度の2度、20年の間隔をおいて同じ地域社会を対象に、同一の回答者を追跡して調査することも含めて実施された待遇表現をめぐる大規模な言語調査である（国立国語研究所1957、同1983）。

小論では、このうち1972年度調査の面接調査において、実際的な言語場面での敬語使用を問うた質問で得られた具体的な言語形式を対象とする。調査では全体で12種類の言語場面を質問しているが、ここでは次の5場面を選ぶ。

- (1) あなたが電報を出さなければならなかったとします。電報（郵便）局で電報用紙をもらうのに、この人に（調査では絵を示す。以下同じ）、何と云って頼みますか。 [質問番号102。以下では「電報用紙」の場面と略称する。]
- (2) これはあなたの買いつけの店です。この店で買物をしましたが、ちょっとよそへ廻るので、このふろしき包みをあずかっておいてもらう場合、あなたは店のこの人に、何と云って頼みますか。 [質問番号103。略称「荷物預け」]
- (3) この人は電燈料の集金人です。この人が先月の料金を取りに来ました。ところが、先月の分はもう払ってあるので、受け取りを見せながら、もう一度調べるように頼むのには、何と言いますか。 [質問番号106。略称「電燈料」]
- (4) ここは東京の町角です。あなたは国会議事堂を見物しようと思っているのですが、道がわかりません。そこで、こういう通りがかりの人に議事堂に行く道をたずねる場合、あなたは何と云って聞きますか。 [質問番号107。略称「議事堂」]
- (5) あなたの家の近所の人が急病になりました。あなたが頼まれて、お医者さんの家に行くと、お医者さんが玄関へ出て来ました。このお医者さんに、すぐ来てもらうには何と云って頼みますか。 [質問番号108。略称「医者」]

この5場面は、依頼とか質問という種類の言語行動の場面である。すなわち言語主体が相手に対してそれぞれ何らかの行動や説明をするように求める、広義の要求の言語行動をする場面である。これ以外の場面は、これに対して、質問されて「これは自

分の子供だ」とか「〇〇橋はあちらだ」などと説明をする場面、傘を忘れかけた人を呼び止める場面、乗物で席をゆずられたのを辞退する場面、買物で渡された釣銭の不足を申し出る場面など、選んだ5場面に比べると言語主体から相手への働きかけ（質問や依頼など）の程度がゆるやかなものである。魚釣りをしている子供に釣れるかどうか尋ねる場面もあるが、質問する情報への欲求度がずいぶん弱いものであって、「議事堂」場面の道聞きとは相手への働きかけの強さが基本的に異なる場面だろう。

つまり、ここでは、言語行動主体から相手への働きかけの相対的に強い（少なくとも質問の文言からよりはっきりとしている）場面を選んで検討の対象としようとしている。このことは、問題のメタ言語行動表現が、そのような種類の言語行動場面の方に比較的多く出現するであろうという一つの仮説的な判断を前提としている。このことは、ここで選ばなかった場面での回答に問題のメタ言語行動表現がきわめて少なくしか登場しないことでもわかるのだが、より厳密には別途検討を加えるべき課題としておき、小論では深く立ち入らない。選んだ5場面についての検討それ自体には、選ばなかった他の場面での回答状況は直接影響しない。

検討は次の手順で進めた。

- (1) 1972年度調査では、上記の5場面ごとに約400名（設問によってごく少数の無回答者があり、有効回答数はいくらか動く）の回答者からの具体的な言語形式による回答を得ており、その網羅的な一覧リストが調査報告書の巻末付録（国語研1983.p.256～）に掲げられている。小論ではまず、これらの回答の言語表現の中に問題とするメタ言語行動表現が含まれているかどうかを検討した。
- (2) 調査報告では、それぞれの回答について一定の基準と手順に基づく「丁寧さの段階点」が付与されて分析に利用された。段階づけの基準・手順は報告書 pp.59～64を参照のこと。この丁寧さ段階は、3段階と5段階との2種類が各回答に付与され、一覧リストにもその全てが掲げられている。小論では、各設問の回答を、問題のメタ言語行動表現を含む回答と含まない回答に分類し、それぞれのグループごとにこの丁寧さ段階という指標を利用して、その丁寧さの平均を算出して検討の材料とした。

なお、この丁寧さ段階点の性格について荻野1980、同1983などの批判があり、数量としてより厳密な丁寧さの数量化手法も提案されている。ここでは、扱う個々の回答にすでに付与された段階点に依拠することの便宜を優先して、調査報告の段階点を利用する。

4. メタ言語行動表現の出現状況

対象とした5場面の回答に問題とするメタ言語行動表現は以下のように現れた。

まず、具体的にどのような表現が見られたかを示すため、各場面、典型的な実例を2例ずつ掲げておく。下線部が問題のメタ言語行動表現と認めた部分である。カタカナ表記は報告書の一覧にならう。末尾の番号は回答者番号である。

[電報用紙] ○スミマセンガ オネガイシマス デンポーヨーシガ ホシーンデスケド
ド イタダケマスカ。(046)

○オテスー カケマス デンポーオ ウチタインデスガ デンポーヨー
シオ イタダキタイト オモイマス オネガイ イタシマス。(122)

[荷物預け] ○スイマセンケドモ チョット ワタシ、ヨージデ コノ ニモツ、コ
コニ オカシテイタダキタインデスケド、 ヨロシク オネガイ シ
マス。(250)

○アノー、チョット スミマセンケド、 コノ ニモツオ スコシノ
アイダ アズカッテ イタダケマセンカ、 ニサンゲン ムコーノ
アノ タケヤエ イッテキマスノデ ヨロシク オネガイ オネガイ
シマス。(367)

[電燈料] ○センゲツブノ デントーリョーワ ハラッテアルンデスガ ウケト
リガ コーユー フーニ アルンデスガ イッペンネンノタメニ シ
ラベテモライタイ …… オネガイ シマス。(120)

○タシカニ センゲツネー オハライ シマシタデネ ココニ リョー
シューショガ アリマスカラ コレオ モッテイラッシャッテ イチ
ド シラベテ イタダキタイ …… オネガイ シマス。(583)

[議事堂] ○アノネ アノー チョット オソレイリマス ミチオ タズネタイン
デスケド アノー スミマセン チョット ミチラ オキキ シタイ
ンデスケドネ アノ コッカイギジドー チョット ケンブツ シニ
イキタインデスケド ドー イッたら イキマスデショーカ。(194)

○ショーショー モノオ オタズネ イタシマス。 アノ チョット
ギジドーニ マイリタイノデスケドモ ドーユー ホーコーデ マイ
リマシトラ ヨロシュー ゴザイマショーカ。(467)

[医者] ○スミマセンガ オトナリニ キュービョーガ デキマシテ ダイリノ
モンデスケド スグニ イッテ アゲテ イタダケマセンカ オネガ
イ イタシマス。(117)

○マコトニ オソレイリマスガ センセー ゴキンジョノ カタガ
 キュービョーナンデスデ スグニ キテ イタダキタイト オモイマ
 スガ オネガイ イタシマス …… ナントカ オネガイシマス。

(583)

こうしたメタ言語行動表現と形態的には同じであっても、つぎのようなものは、メタ言語的なものでなく要求の意図を直接的に（いわゆる対象言語として）表現したものと判断して、ここでの対象には含めなかった。

○ライシンシ オネガイシマス。（電報用紙。002）

○チョット コレ オネガイシマス。（荷物預け。130）

○センゲツ チャント ダシマシタ。 コノ トーリ ウケトリショーガ アリマ
 スカラ、 モー イチド シラベテカラ オネガイシマス。（電燈料。561）

○キュービョーデ シニソーダカラ ダイシキュー オネガイ シマス。（医者。
 097）

場面ごとに数えてみると、メタ言語行動表現をふくむ回答数は表1のようになった。表1は、報告書で示された各場面の丁寧さ段階の平均点（3段階と5段階）を併記し、その丁寧な（5段階得点の数値の低い）順に並べた。

【表1】 場面ごとのメタ言語表現出現数

場 面	出現度数	3段階点	5段階点
医 者	26件	1.562点	2.662点
荷物預け	19	1.764	2.712
議 事 堂	64	1.899	2.736
電 燈 料	2	1.955	3.116
電報用紙	11	1.799	3.179

表に見るように64件の回答に問題の表現が現れた「議事堂」がもっとも多く、2件しか現れなかった「電燈料」まで、出現度数は散らばりを見せた。それぞれの有効回答総数は400（医者）から396（電燈料）の間であってほとんど差はない。このような出現度数については、次のことがらを指摘したい。

第1に、このメタ言語行動表現の出現度数は、それぞれの場面の場面としての丁寧さの程度とは有意な関係をもっていないらしいということである。このことは、表1に併記した場面ごとの丁寧さ得点と出現度数との相互関係をながめれば明らかであ

ろう。3段階得点、5段階得点とも、順位相関係数などを計算するまでもなく、出現度数との関連は指摘しがたい。調査報告書では、「オ～ニナル、～ラレル、～クダサル」など具体的な敬語形式や「スママセン、オソレイリマス」などの依頼前置き表現、人称などの呼称形式、あるいは表現の肯定・否定の選択など、いろいろな言語事象がこの場面ごとの丁寧さ段階点との関係を観点として分析され、多くはなんらかの程度で統計的に有意な相関をもつことが示されている。小論の問題とするメタ言語行動表現については、場面ごとの言語場面としての丁寧さとの間のそのような関係を主張できないのである。

場面によってメタ言語行動表現の出現が散らばることについては、したがって場面の丁寧さとは別の観点からの説明が求められる。この点に関して、小論の範囲では次の二つの観点からの説明の可能性を指摘したい。一つはメタ言語行動表現のもつ定型性という性格である。言語場面における言語行動の定型性は、あいさつ行動などをはじめとして幅広く観察される場所である（たとえば杉戸1981、国語研1984など）。同様の性格がメタ言語行動表現にも多かれ少なかれ観察されることは、杉戸1989に概観した通りである。今回の資料についてもこれはあてはまり、とりわけ、5場面のうちもっともメタ言語行動表現の多く出現した「議事堂」はそうである。そこでは64例中56例まで、「チョットオ尋ネ（オ聞キ／オ伺イ）シマスガ／オ尋ネ（オ聞キ）シタイノデスガ」など類似の形式でメタ表現が現れている。残りの8例は「オネガイシマス」という、これも劣勢ながらも定型的なメタ表現であった。さらに、形式だけが定型的であるのではなく、その出現位置にも、ほとんどすべてが回答の冒頭部分に現れるという定型性が指摘できる。道尋ねという言語行動においてメタ言語行動表現にまつわるこのような定型性が、表1の「議事堂」での出現度数の多さに顔を見せたと考えられるだろう。

もう一つは「電燈料」におけるメタ言語行動表現の目立った少なさに関係する。この場面が他の4場面と異なるのは、行動主体が相手に対して明らかに強い立場にいるという点である。集金人がミスで2度も集金に来たと確信して、証拠の領収書を示しつつ指摘して調べ直すように求めるのである。他の4場面が用件に違いこそあれ、相手からの恩恵を受ける下手（シタテ）からの依頼行動場面であるのに対して、「電燈料」は逆に相手の負い目を前提にした上手（ウワテ）からの要求行動場面である。場面での対人関係のこのような違いが、メタ言語行動表現の出現度数のギャップに関係していると考えられるとすれば、メタ言語行動表現には、下手からのつつしみへりくだった姿勢にあさわしく、逆に相手の負い目を前提にした居丈高な姿勢にはなじまないと

いう表現上の性格（意味特徴）が認められなくてはならない。杉戸・塚田1993では、あらたまった場面でのあいさつ（スピーチ）でのメタ言語行動表現を検討してそのあらたまり性（とくにその1側面として、直接性を避けてつつしみやかしこまりを添える性格）を指摘したが、そこでの議論に平行的な事情をいわば裏返しのかたちで、今回の「電燈料」場面は示唆していると筆者は考える。「電燈料」の場面としての丁寧さ得点は低い（3段階では最低。5段階では4位）のであるが、そうした包括的な指標からだけでは説明できない事情が、たとえばこのような形で存在するのであろう。今後さらに多くの事例にあたって検討すべき課題である。

5. メタ言語行動表現の有無による表現全体の丁寧さの違い

前項では、場面ごとの状況や丁寧さとの関連でメタ言語行動表現の出現状況を検討したが、次にメタ言語行動表現そのものが表現の丁寧さとどのような関連を持つか（持たないか）を検討する。

前述の手順(2)で示したように、各設問の回答を、問題のメタ言語行動表現を含む回答群と含まない回答群に分類し、それぞれのグループごとにこの丁寧さの段階点の平均を算出した。その結果が表2である。メタ言語行動表現が2件しか現れなかった「電燈料」の場面は平均値や分散の計算に適さないので、ここでの検討から除外した。

この段階得点を利用するについては、個々の回答の得点を決定する際に、ここで問題にしているメタ言語行動表現の有無は直接的な判断条件としては考慮されていなかった、ということが重要である。もし初めから考慮されていたとすれば、上記のような検討は循環論に陥り無意味となる。

表2の数値は次の2点に注目したい。最初に注意すべきは、3段階得点の「医者」の場合を除くと、全てのケースで、メタ言語行動表現を含む回答グループの平均点の方が含まないグループのそれより低く、表現としては丁寧であると判定されていたものということである。3段階得点の方では両グループの得点がきわめて接近しているが、5段階得点では相当に離れた場合が多い。メタ言語行動表現を含むグループの度数が十分に大きいとは言えないことなどから平均値の差の検定は不安定ではあるが、念のために行ったところでは、5段階得点の方では、3場面でメタ言語行動表現を含むグループが有意な差をもって丁寧であるという結果が得られた。もう一つの「荷物預け」の数値も有意差を指摘できるレベルにごく近かった。3段階得点ではいずれも（逆転した「医者」場面の数値も含めて）有意差は指摘できず、傾向として、メタ言語行動表現を含むグループの方の丁寧さが観察されるにとどまった。ともあれ、こ

うした結果は、メタ言語行動表現それ自体が自らを含む言語行動の丁寧さを強化し支える方向の働きをするものであることを、その数値の範囲程度までには示しているものと言える。第2節で述べたように従来直接的には論じられていないメタ言語行動表現と丁寧さとの関連についての一つの記述結果として、小論で注目したいところである。

表2のうち括弧に入れて示した各得点の分散値についても注目すべきだろう。すなわち、メタ言語行動表現を含む回答グループの分散の方が、含まないグループのそれに比べて、全てのペアにおいてこれはかなり顕著な差でもって小さく、含むグループの個々の回答の得点の散らばりが相対的に少ないことが指摘できるのである。含まないグループよりも低い（丁寧な）平均得点の近くに集まって安定して分布している様子が把握できる。このことも、メタ言語行動表現を含む言語表現の丁寧さの一つの姿として注目しておきたい。

このほか、場面の間での平均点の順序が、3段階得点と5段階得点との間やメタ言語行動表現の有無の両グループの間でふぞろいであることなどが気になるが、深読みは避けるべきだろう。

【表2】メタ言語行動表現の有無と丁寧さ得点

〔3段階点〕

場 面	メタ言語行動表現			
	有グループ		無グループ	
医 者	26件	1.577点 (0.244)	374件	1.561点 (0.3478)
荷物預け	19	1.737 (0.194)	380	1.766 (0.4109)
議事堂	64	1.891 (0.097)	334	1.901 (0.1609)
電報用紙	11	1.636 (0.231)	386	1.803 (0.2436)

()内は分散。どのペアの平均点にも有意差はない。

〔5段階点〕

場 面	メタ言語行動表現			
	有グループ		無グループ	
医 者	26件	2.423点 (0.321)	374件	2.679点 (0.9612)
荷物預け	19	2.315 (0.848)	380	2.732 (1.6332)
議事堂	64	2.250 (0.344)	334	2.829 (0.9499)
電報用紙	11	2.455 (0.248)	386	3.199 (0.6985)

()内は分散。)は平均点に信頼度95%で有意差のあることを示す。

6. まとめにかえて

以上、メタ言語行動表現と丁寧さとの関連について、小論は次のような指摘をした。

- (1) 言語行動場面自体の丁寧さの程度とは必ずしも相関的な現れはしない。
- (2) メタ言語行動表現にも言語行動や場面の種類に応じた定型性が観察され、それによってメタ言語行動表現の出現頻度に差異がありうる。
- (3) 言語行動に関与する人同士の恩恵や負い目などをめぐる立場関係など、丁寧さという包括的な指標をより分析的にとらえたところに、メタ言語行動表現の現れを説明する観点がありうる。
- (4) メタ言語行動表現を含む言語表現は、含まない言語表現よりも相対的に丁寧であると評価されると、ある程度の確かさをもって主張しうる。
- (5) メタ言語行動表現を含む言語表現の丁寧さの程度は、含まない言語表現よりも相対的に安定している。

小論の検討は、一つの社会言語学的な臨地調査で得られた話しことばデータに関する限りのものである。自然な会話資料に比べて等質的なデータを大量に扱うことができるという利点のある半面、インタビュー場面で仮想されて回答された反応語形であるという制約がつきまどっていることは言うまでもない。メタ言語行動表現を従来検討するときに対象にしたのが公用文、学術専門文章、公的なあいさつなどの、いわば特殊なジャンルの言語資料であったことからすれば、より自然な日常会話に近いデータを扱ったことになるとは言え、小論が、今後さらに対象を拡大させていく過程の1段階であることは動かない。その過程では、ここで選んだ分析の観点や手順、さらには指摘したことがら自体も再検討され拡大されるべきであることもやはり同じく動かないだろう。

(本文以上)

【参考文献】

- 国立国語研究所1957 『敬語と敬語意識』(国語研報告11、秀英出版)
- 国立国語研究所1983 『敬語と敬語意識——岡崎における20年前との比較』(国語研報告77、三省堂)
- 国立国語研究所1984 『言語行動における日独比較』(国語研報告80、三省堂)
- 野元菊雄 1978 「ていねいさの順位」(『国語学』115集、国語学会)
- 野元菊雄 1984 「敬語の使い分け点」(国立国語研究所『研究報告集』5、秀英出版)
- 野元菊雄 1985 「敬語のパネル調査から(その1)合計段階点と適応点」(国立国語

研究所『研究報告集』6、秀英出版)

- 荻野綱男 1980 「敬語における丁寧さの数量化」(『国語学』120集、国語学会))
- 荻野綱男 1983 「待遇表現の数量化」(『朝倉日本語新講座5 運用1』、朝倉書店)
- 杉戸清樹 1981 「あいさつの言葉と身振り」(『ことばシリーズ14 あいさつと言葉』
文化庁国語課編・発行)
- 杉戸清樹 1983 「待遇表現としての言語行動——『注釈』という視点」(『日本語学』
2巻 7号、明治書院)
- 杉戸清樹 1985 「文書の定型表現」(『言語生活』408号、筑摩書房)
- 杉戸清樹 1989 「言語行動についてのきまりことば」(『日本語学』8巻2号、明治書院)
- 杉戸清樹 1993 「言語行動を説明する言語表現の諸相」(国立国語研究所研究発表会
資料)
- 杉戸清樹・塚田実知代 1991 「言語行動を説明する言語表現——専門的文章の場合」
(国立国語研究所『研究報告集』12、秀英出版)
- 杉戸清樹・塚田実知代 1993 「言語行動を説明する言語表現——公的あいさつの場合」
(国立国語研究所『研究報告集』14、秀英出版)
- (すぎと せいじゅ・国立国語研究所所員)